J-CEF スタディ・スタヂオ Online Vol.21セミナーレポート

「ちがさきこども選挙」の展開
―市民の取組の共有と活用の検討―

開催日時：2023 年 2 月 26 日（日）　運営媒体：Zoom
参加者数：16 名（社会人 9 名、運営メンバー7 名）

話題提供者：宮崎一徳さん（博士（公共政策学）/J-CEF 会員） 池田一彦さん、池田美砂子さん（C の辺り/株式会社 be）

今回は、3 名の話題提供者により茅ヶ崎市長選挙において行われた「ちがさきこども選挙」の事例について学びました。「ちがさきこども選挙」は大人が実行委員会を立ち上げ、小学生の運営メンバーの主体性を尊重しながら実施した画期的な試みです。小学生の運営メンバーが 4 回のワークショップを重ね、「選挙とは何か？」「茅ヶ崎ってどんなまち？」「候補者にどんなことを質問したい？」といったことについて話し合ったそうです。また、投票の参考にするための候補者インタビュー動画を作成し、地域に 11 か所も子ども選挙の投票所を作り、たくさんポスターやチラシを配ることで 600 人弱の子どもが参加することができました。

子どもの主権者意識向上はもちろんのこと、大人も子どもの活動に影響を受けて「大人ももっと政治に関心を持たなきゃ！」「大人も茅ケ崎のことを考えなきゃ！」と思うようになったそうです。また、子ども選挙の前は「子どもがこんなこと考えられるの？」と子どもを信じることが難しい大人もいたそうですが、子ども選挙の後は「思っていた以上に子どももまちのことに深く考えることができるんだ」と気づいた大人が多くいたそうです。また、今回は「こども選挙」の内容や意義だけでなく、実施する際のリスクマネジメントについても話してもらいました。スタディ・スタヂオには「ぜひ私もやってみたい」と思った参加者が多かったため、子どもの選挙運動に抵触しないようにどうすればいいか、禁止されている選挙前の人気投票にならないようにどうすればいいか、公平性をどう担保するか、子どもの安全をどう守るか、といったことについてどのようなリスクマネジメントが行われたのか、など聞くことができ、とても勉強になりました。

後半のディスカッション・質疑応答では「子ども選挙を民間団体が運営するときの課題は何か？」「行政・学校と連携できるのが理想だが、行政・学校はリスクを回避しようとするものなので民間主体でやる方が良い？」「公職選挙法をどのように解釈すればよい？」といったことについて議論しました。

今後は「全国こども選挙実行委員会」というネットワークをつくり、茅ケ崎市での実践を全国に広げる活動を進めていくそうです。この活動は始まったばかりで“前例”を積み重ねていっている途中です。このような活動が全国に広がれば、小学生から大人まで一緒に未来について考えることができるまちが増えていくのではないかと思います。「準備が果てしなく大変だった」と池田さんご夫妻は振り返っていましたが、本当に意義のある活動だと思います。ぜひ、このような活動に関心のあるかたがいらっしゃいましたら「ちがさき子ども選挙」にご連絡ください。

（企画運営：古野、浜田、岡本、別木、報告担当：別木）